教科	科目	単位数	対象学年
国語	現代の国語・論理国語	２・１	４年

１．学習の到達目標等

到達目標	①　語彙・用語など国語学習の基礎知識を身につける。 ②　論理的文章の読解を通して論理的思考を身につける。 ③　言語文化との横断で、文学的文章の読解を通して人間の真実に目を向ける
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることを基本とし、必要な物を準備し、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、またグループ学習において、他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることが出来る力を身につける。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。 家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧に取り組み、復習をする習慣を身につける
使用教科書	『現代の国語』（筑摩書房）　　『論理国語』（筑摩書房）
使用副教材	『グラン現代文』（尚文出版） 『即戦ゼミ　新国語問題総演習』（桐原書店） 『新国語便覧』（第一学習社）
評価基準	知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点に基づき、小テスト及び中間・期末テスト・提出物・授業態度などを総合的に判断して評価する。
学習内容	○言語知識　・現代文・古文・漢文に関する基礎知識（漢字の読み書き・語彙・用語・口語文法・文語文法）の確実な理解・運用の確認をする。 ○論説文・評論文 ・論理的文章の読解を通して、社会科学・人文科学・自然科学における知識の吸収と思考のあり方を学習する。 ・全体の論展開を把握し、文章の要旨、筆者の主張を読み解くことを学習する・ ・自分の意見、考えを論理的に表現することを学習する ○資料・データ・実用的文章・実践 **・情報の扱い方について理解を深め、自ら情報を利用して思考する力を養い、・実社会との関わりを考える** **・論理的な文章や実用的な文章について、根本から問い直し、現代的な視点から論理的思考を育む**

２指導計画　＊「現代の国語」「言語文化」は教材を横断する場合がある

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
高1	国語総合	評論	「サイエンスの視点、アートの視点」等					1学期中間考査						1学期期末考査							2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
		実践	「質問する力を育てよう」等																																	
		評論	「ことばとは何か」等																																	
		実践	意見論述など																																	
		評論	「「ことばがつくる男と女」等																																	
		実践	メモ・ノートの取り方。活かし方																																	
		評論	「誰かの靴を履いてみること」																																	
		実践	「議論する力」を育てよう																																	
		評論	「魔術化する化学技術」など																																	
		評論	「ポスト真実時代のジャーナリズム」等																																	
		実践	「会話と対話」																																	
		評論	「記憶する体」など																																	
		評論	「贅沢の条件」など																																	
		言語知識	漢字・文語文法・語彙等																																	
		資料・データ	「わかっていることいないこと」等																																	

教科	科目	単位数	対象学年
国語	言語文化	2	4年

1．学習の到達目標等

到達目標	古文・漢文の読解が出来るようになり、古典の世界に興味を持つことが出来る。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることが基本という意識を持たせる。授業は説明を注意深く聞き、受け身ではなく主体的に取り組ませるよう工夫をする。家庭学習を習慣付けるためにも、授業の復習などの課題を適切に指示するよう心がける。
使用教科書	『言語文化』（筑摩書房）
使用副教材	『やさしくくわしい古典文法』（尚文出版） 『力をつける古文ステップ２』（尚文出版） 『入試対策ﾍﾞｽﾄｾﾚｸｼｮﾝ古文単語３２５』（尚文出版） 『新明説漢文』（尚文出版） 『力をつける漢文習得編』（尚文出版）　　自主教材
評価基準	知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点に基づき、小テスト・定期考査・課題提出・出欠状況などから総合的に評価する
学習内容	・古典単語の習得 ・古典文法の習得 ・古文（主に説話）の読解 〇中等部で学習した文法、語句の知識の定着を確認しながら文章を読解する時間、量を徐々に増やしていく。 漢文の基本構造・漢文訓読の基本・ 句形・句法の習得 〇中等部で学習した訓読方法に加え、必要な句形（再読文字・使役・受身など）の基本を身に付ける。 〇詩歌・文学的文章 ・文学的文章の読解を通して、時代背景・思想・心情理解につなげる。 ・短詩形文学の学習を通して、修辞技法を契機としながら独特の表現世界の理解につなげる

2．指導計画＊「現代の国語」「言語文化」は教材を横断する場合がある

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
高1	言語文化	説話・随筆	宇治拾遺物語		■	■	■	1学期中間考査	■	■	■	■	1学期期末考査								2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
			今昔物語など						■	■	■	■		■				■	■	■		■	■	■	■												
			徒然草		■	■	■		■	■																										
		物語	伊勢物語						■	■	■	■		■			■	■	■	■																
			大和物語など																										■	■	■	■	■		■	
		日記	更科日記											■			■	■	■	■		■	■	■	■												
		漢文	故事		■	■	■		■	■	■	■		■			■	■	■	■																
			史伝・漢詩等																			■	■	■	■		■		■	■	■	■	■		■	
		現代文	小説「羅生門」など		■	■	■		■	■	■	■		■			■	■	■	■																
			随筆「なぜ日本語で書くのか」など																■	■		■	■	■	■		■		■	■						
			詩歌「二十億年の孤独」など																										■	■	■	■	■		■	

教科	科目	単位数	対象学年
地歴	地理総合	2	4 年

1．学習の到達目標等

到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
目標を達成するための留意点	社会的事象の本質を見極めることのできる力をつけるために、多面的な知識を活用していくことを主眼において授業を展開する。そのためには社会（身の回り、社会で起こっていること）に興味を持ち、自分からグローバル社会に飛び込んでいく姿勢が必要となる。
使用教科書	新地理総合（帝国書院）、新詳高等地図初訂版(帝国書院)
使用副教材	新詳地理資料（帝国書院)、サクシード地理(啓隆社)
評価基準	知識・技能／思考・判断・表現／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	●第１部　地図でとらえる現代世界 第１章　地図と地理情報システム 第２章　結び付きを深める現代世界 ●第２部　国際理解と国際協力 第１章　生活文化の多様性と国際理解 第２章　地球的課題と国際協力 ●第３部　持続可能な地域づくりと私たち 第１章　自然環境と防災 第２章　生活圏の調査と地域の展望

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4	地理総合	地図と地図情報システム	位置と時差		■			1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
			地図の役割と種類			■																														
		結ぶ月を深める現代社会	国家と領域				■																													
			グローバル化する世界						■																											
		生活文化の多様性と国際理解	世界の地形と人々の生活							■																										
			世界の気候と人々の生活								■																									
			世界の言語・宗教と人々の生活									■																								
			歴史的背景と人々の生活											■																						
			世界の産業と人々														■																			
		地球的課題と国際協力	複雑に絡み合う地球的課題															■																		
			地球環境問題																■																	
			資源・エネルギー問題																	■																
			人口問題																			■														
			食料問題																				■													
			都市・居住問題																					■												
		自然環境と防災	日本の自然環境																						■											
			地震・津波と防災																								■									
			火山災害と防災																											■						
			気象災害と防災																												■					
			自然災害への備え																													■				
		生活圏の調査と地域の	生活圏の調査と地域の展望																														■	■		■

教科	科目	単位数	対象学年
地理歴史科	歴史総合	2	4

１．学習の到達目標等

到達目標	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉え，資料を活用しながら歴史の学び方を習得し，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察，構想する力を養う。
目標を達成するための留意点	年表，地図その他の資料の活用を通して世界の歴史の理解を図り，思考力・判断力・表現力等の育成を育んでいく。また世界の歴史の理解を踏まえて，現代の課題を政治・経済・社会・文化・生活・宗教など様々な観点から考察できる力を育んでいく。世界の構造や成り立ちを歴史的視野から考察し，自己の属する国や地域の理解の上に，国際社会で主体的に生き，平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質，態度を養う。
使用教科書	現代の歴史総合　みる・読みとく・考える（山川出版社）
使用副教材	Winning COM.-PASS　歴史総合の整理と演習（東京法令出版）
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	第Ⅰ部　近代化と私たち 第１章　結びつく世界と日本の開国 １　１８世紀の東アジアにおける社会と経済　２　貿易が結んだ世界と日本 ３　産業革命　４　中国の開港と日本の開国 第２章　国民国家と明治維新 １　市民革命　２　国民国家とナショナリズム　３　明治維新 ４　日本の産業革命　５　帝国主義　６　変容する東アジアの国際秩序 ７　日露戦争と東アジアの変動 第Ⅱ部　国際秩序の変化や大衆化と私たち 第３章　総力戦と社会運動 １　第一次世界大戦の展開　２　ソヴィエト連邦とアメリカ合衆国の台頭 ３　ヴェルサイユ体制とワシントン体制　４　世界経済の変容と日本 ５　アジアのナショナリズム　６　大衆の政治参加　７　消費社会と大衆文化 第４章　経済危機と第二次世界大戦 １　世界恐慌の時代　２　ファシズムの伸長と共産主義　３　日中戦争への道 ４　第二次世界大戦の展開　５　第二次世界大戦下の社会 ６　国際連合と国際経済体制　７　占領と戦後革命 ８　冷戦の始まりと東アジア諸国の動向　９　日本の独立と日米安全保障条約 第Ⅲ部　グローバル化と私たち 第５章　冷戦と世界経済 １　冷戦下の地域紛争と脱植民地化　２　東西両陣営の動向と１９６０年代の社会 ３　軍拡競争から緊張緩和へ　４　地域連携の形成と展開 ５　計画経済とその波及　６　日本の高度経済成長　７　アジアのなかの戦後日本 第６章　世界秩序の変容と日本 １　石油危機　２　アジア諸地域の経済発展　３　市場開放と経済の自由化

	4　情報技術革命とグローバリゼーション　　5　冷戦の終結とソ連の崩壊 6　現代の東アジア　　7　東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化 8　地域統合の拡大と変容　　9　地域紛争と国際社会　　１０　現代と私たち

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下
4	歴史総合	第1章	18世紀の東アジアにおける社会と経済					1学期中間考査					1学期期末考査						
			貿易が進んだ世界と日本																
			産業革命																
			中国の開港と日本の開国																
		第2章	市民革命																
			国民国家とナショナリズム																
			明治維新																
			日本の産業革命																
			帝国主義																
			変容する東アジアの国際秩序																
			日露戦争と東アジアの変動																
		第3章	第一次世界大戦の展開																
			ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭																
			ヴェルサイユ体制とワシントン体制																
			世界経済の変容と日本																
			アジアのナショナリズム																
			大衆の政治参加																
			消費社会と大衆文化																
		第4章	世界恐慌の時代																
			ファシズムの伸長と共産主義																
			日中戦争への道																
			第二次世界大戦の展開																

				10月			11月			12月			1月	1月		2月			3月	
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
4	歴史総合	第4章	第二次世界大戦化の社会		2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査	
			国際連合と国際経済体制																	
			占領と戦後改革																	
			冷戦の始まりと東アジア諸国の動向																	
			日本の独立と日米安全保障条約																	
		第5章	冷戦下の地域紛争と脱植民地化																	
			東西両陣営の動向と1960年代の社会																	
			軍拡競争から緊張緩和へ																	
			地域連携の形成と展開																	
			計画経済とその波及																	
			日本の高度経済成長																	
			アジアのなかの戦後日本																	
		第6章	石油危機																	
			アジア諸地域の経済発展																	
			市場開放と経済の自由化																	
			情報技術革命とグローバリゼーション																	
			冷戦の終結とソ連の崩壊																	
			現代の東アジア																	
			東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化																	
			地域統合の拡大と変容																	
			地域紛争と国際社会																	
			現代と私たち																	
			まとめ																	

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ⅰ＋数学Ⅱ	4（3＋1）	4年生

1．学習の到達目標等

到達目標	下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。 ・「数学Ⅰ」の内容を習熟させるとともに，関数分野でのグラフの考えを適所で利用できるようにする。 ・図形を方程式で表し，図形の性質を調べる方法を学ぶことにより，数学の多様な考えを理解させる。 ・三角関数，指数関数，対数関数など様々な関数の存在を知り，関数についての理解を深める。 ・多項式関数を対象に，微分法の基本的な概念を理解させる。
目標達成のための留意点	・授業の復習を中心とした家庭学習を定着させるために、毎日課題や週末課題を出し、その課題と BC を用いて教員が把握する。 ・生徒の主体的な学習を促すため，AL 型授業の活用など生徒集団の資質に応じた授業展開を工夫すること。
教科書	「数学Ⅰ」(数研出版），「数学Ⅱ」(数研出版）
副教材	「サクシード数学 I+A」(数研出版)，「4STEP 数学Ⅱ＋B＋C」(数研出版)，「解法のエウレカ数学Ⅱ・B＋ベクトル」(Gakken)
評価方法	定期考査，小テスト，提出課題などで知識・技能・思考力・判断力・表現力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自己調整力、粘り強さなども考慮し，総合的に評価する。
学習内容	[数学Ⅰ] 第4章　図形と計量：いろいろな図形について，辺，角，面積，体積などの計量や面積比・体積比について学ぶ。 第5章　については数学 B の授業で学ぶ。 [数学Ⅱ] 第1章　式と証明：整式の除法，分数式の計算，等式・不等式の証明について学ぶ。 第2章　複素数と方程式：数の範囲を複素数まで拡張し，2 次方程式の判別式の意味や解と係数の関係について学ぶ。 第3章　図形と方程式：座標・方程式を用いて基本的な平面図形の性質や関係を考察する。特に，点と直線の距離，直線・円の位置関係や方程式，軌跡と領域について学ぶ。 第4章　三角関数：角の拡張により三角関数を定義し，関数についての理解を深める。また，三角関数の加法定理と，それから導かれる種々の定理について学ぶ。 第5章　指数関数と対数関数：指数の拡張により指数関数および対数関数を定義し，関数についての理解を深める。また，指数関数・対数関数を具体的な事象の考察に活用することを学ぶ。 第6章　微分法と積分法：「微分法」では微分係数・導関数の意味を理解し，接線の方程式や関数の変化の調べ方を学び，グラフの概形が描けるようにする。

2．授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項　目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学Ⅰ	三角比					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
数学Ⅱ	式と証明																																				
	複素数と方程式																																				
	図形と方程式																																				
	三角関数																																				
	指数関数と対数関数																																				
	微分法(積分法は5年次)																																				

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ｂ	２	４年

1．学習の到達目標等

到達目標	下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に， ・「ベクトル」の学習では，その演算の習得・習熟と図形問題への応用を理解することにより，他の単元との関連性・差異性・有用性に気づかせる。 ・「数列」の学習では，素朴な個数処理，規則性の発見からはじめ，より数学的な考察，論理性，表現力を伸ばす。 ・「統計的な推測」では，確率変数と期待値などの考え方を学び，そのような確率論の方法を生かして現実の調査で得られるデータからその意味を見出す考え方を身に付ける。 ・校外模擬模試で偏差値 60 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	「数学 A」と同様に，どの単元も，素朴な知識の活用から始めることができ，その活動をより主体的な学習に導くことで，数学的な考察・論理性・表現力の大切さに気づかせることができる。したがって，授業も，生徒が主体的に考え，活動できるように工夫する必要がある。
教科書	「数学B」（数研出版），「数学 C」（数研出版）（発展的内容として扱う）
副教材	「サクシード数学 I+A」(数研出版)，「4STEP 数学Ⅱ＋B＋C」（数研出版），「解法のエウレカ数学Ⅱ・B＋ベクトル」（Gakken）
評価方法	定期考査，小テスト，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	［数学 B］ 第1章　数列 数列とその和，および漸化式と数学的帰納法について学ぶ。 第2章　統計的な推測 確率変数とその分布，標本調査，統計的な推測を学ぶことで，不確定な事象の考察をする。 ［数学 C］ 第 1・2 章ベクトル 平面・空間上でのベクトルの意味，ベクトルの加法・減法・実数倍，ベクトルの成分や内積，位置ベクトル，図形のベクトル方程式について学び，基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて考察する。

2．授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項　目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学B・C	データの分析(仮説検定)	■	■	■		1学期中間試験					1学期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	数列				■		■	■	■	■		■	■																								
	平面ベクトル																■	■	■	■			■														
	空間ベクトル																							■	■	■				■	■	■	■				
	統計的な推測(5年次に)																																	■	■		

教科	科目	単位数	対象学年
理科	物理基礎	2	4 年

1．学習の到達目標等

到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら目的意識をもって観察，実験などを行い，自然を探究する能力と態度を身につけるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	学習のアドバイス等 1　日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。 2　疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 3　演習を通じて、学習内容を確認し、思考力や応用力を養うこと。
使用教科書	「考える物理基礎」（啓林館）
使用副教材	「センサー　物理基礎」（啓林館）
評価基準	・定期試験　・課題提出　・授業への意欲 により総合的に判断する。
学習内容	第２部「熱」，第３部「波」，第４部「電気と磁気」，第５部「物理と私たちの生活」の各部において，物理現象を観察，実験などを通して探究し，それらの基本的な概念や法則を理解し，物理現象とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。

2．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
熱	熱とエネルギー	■	■	1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
波	波の性質				■		■		■	■								
	音				■		■		■	■		■						
電気と磁気	静電気と電流											■		■	■			
	交流と電磁場											■		■	■	■		
物理と私たちの生活	エネルギーとその利用															■		■
	物理学が拓く世界															■		■

教科	科目	単位数	対象学年
理科	化学基礎	2	4 年

1．学習の到達目標等

到達目標	○　酸化と還元に関する事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を身につける。 ○　気体，液体，固体の性質を探究し，物質の状態変化，状態間の平衡について理解し，日常生活や社会と関連づけて考察する態度を身につける。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく，能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。
使用教科書	「改訂　化学基礎」（東京書籍） 「改訂　化学（理論編）」「改訂　化学（物質編）」（東京書籍）
使用副教材	「セミナー化学基礎＋化学」（第一学習社） 「フォトサイエンス　化学図録」（数研出版）
評価基準	＊主体的に学習に取り組む態度 ＊思考・判断・表現 ＊知識・技能 　の３つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	化学基礎 第２編：物質の変化 　　２章：酸と塩基 　　３章：酸化還元反応 化学 第１編：物質の状態 　　１章：物質の状態 　　２章：気体の性質

2．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
物質の変化	酸と塩基	■	■	1学期中間考査	■	1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	酸化還元反応						■		■	■								
物質の状態	物質の状態											■		■				
	気体の性質													■	■	■		■
	溶液の性質																	
	固体の構造																	

教科	科目	単位数	対象学年
理科	生物基礎	2	4 年

1．学習の到達目標等

到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく，能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。 演習を通じて，学習内容を確認し，思考力や応用力を養う。
使用教科書	「生物基礎」（東京書籍）
使用副教材	「リードα　生物基礎」（数研出版）
評価基準	＊主体的に学習に取り組む態度 ＊思考・判断・表現 ＊知識・技能 の３つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	１編：生物の特徴 １章：生物の多様性と共通性 ２章：生物とエネルギー ２編：遺伝子とそのはたらき １章：遺伝情報と DNA ２章：遺伝情報とタンパク質 ３編：ヒトの体の調節 １章：体内環境と情報伝達 ２章：免疫のはたらき ４編：生物の多様性と生態系 １章：植生と遷移 ２章：生態系と生物の多様性

2．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
生物の特徴	生物の多様性と共通性	■	■	1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	生物とエネルギー		■															
遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA				■													
	遺伝情報とタンパク質						■		■									
ヒトの体の調節	体内環境と情報伝達								■	■		■						
	免疫のはたらき													■	■			
生物の多様性と生態系	植生と遷移														■	■		
	生態系と生物の多様性																	■

教科	科目	単位数	対象学年
保健体育	体育	2	4 年

1．学習の到達目標等

到達目標	各種の運動の合理的な実践をとおして、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動することのできる資質や能力を身につける。
目標を達成するための留意点	・各運動の基本的技能を身につける。 ・年間を通じての基礎トレーニングにより、体力の向上を図る。 ・規律規範を守る。
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用副教材	現代高等保健体育　ノート（大修館）、最新スポーツルール（大修館）
評価基準	【知識及び技能】 運動の合理的な実践を通して、各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。また、運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。 【思考力，判断力，表現力等】 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。 【学びに向かう力，人間性等】 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら運動しようとする。 以上の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）などから総合的に判断します。
学習内容	下記の　2．指導計画参照。 【体育理論】運動やスポーツの効果的な学習の仕方

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4	体育	集団行動			■	■	■												■																				
		体つくり運動			■	■	■	1					1						■				2					2											
		新体力テスト			■	■	■	学					学										学					学									学		
		陸上						期					期										期					期	■		■	■	■				年		
		ダンス						中					期										中					期									末		
		武道	剣道					間					末										間	■	■	■	■	末									考		
		球技	ゴール型、ネット型、ベースボール型					考	■	■	■	■	考	■						■	■	■	考					考					■	■	■	査	■	
		器械運動	マット運動					査					査										査	■	■	■	■	査											
		体育理論	運動・スポーツの学び方																					■	■						■	■							

教科	科目	単位数	対象学年
保健体育	保健	1	4 年

1．学習の到達目標等

到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解し、生涯において健康を管理し、実践していくための発展的学習内容を身につける。
目標を達成するための留意点	・各単元の健康課題についての理解を深める。 ・生涯を通じての健康に対して、また社会生活と健康との関わりに ついての理解を深める。
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用副教材	現代高等保健体育　ノート（大修館）
評価基準	【知識及び技能】 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 【思考力，判断力，表現力等】 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。 【学びに向かう力，人間性等】 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。 上記の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）、各期末考査による理解度、学習到達度の評価、課題の提出状況などから総合的に判断します。
学習内容	3.生涯に通じる健康（ライフステージと健康　～　健康的な職業選択） 4.健康を支える環境づくり（大気汚染と健康　～　健康に関する環境づくりと社会生活）

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4	保健	生涯に通じる健康 健康を支える環境づくり	3-1　ライフステージと健康		■																																		
			3-2　思春期と健康			■																																	
			3-3　性意識と性行動の選択				■																																
			3-4　妊娠・出産と健康					■																															
			3-5　避妊法と人工妊娠中絶							■																													
			3-6　結婚生活と健康								■	■																											
			3-7　中高年期と健康											■																									
			3-8　働くことと健康				1						1						■				2					2									学		
			3-9　労働災害と健康				学						学							■			学					学									年		
			3-10　健康的な職業生活				期						期								■		期					期									末		
			4-1　大気汚染と健康				中						期									■	中					期									考		
			4-2　水質汚濁、土壌汚染と健康				間						末										間	■				末									査		
			4-3　環境と健康にかかわる対策				考						考										考		■			考											
			4-4　ごみの処理と上下水道の整備				査						査										査			■		査											
			4-5　食品の安全性																							■													
			4-6　食品衛生にかかわる活動																										■										
			4-7　保健サービスとその活用																													■							
			4-8　医療サービスとその活用																														■						
			4-9　医薬品の制度とその活用																															■	■				
			4-10　さまざまな保健活動や社会対策																																	■			
			4-11　健康に関する環境づくりと社会参加																																			■	

授業科目	芸術　音楽 Ⅰ				令和７年度 芸術科シラバス
履修 学年	４年	（選択）	単位数	２	
授業内容	主に音楽理論の学習とバンド編成による楽曲の演奏活動を通して、音楽的感性を深め、演奏の基本手法を実習すると共に、主体的かつ創造的な芸術的表現を行う。 １学期　音楽理論（楽典）と実習　視唱　基本奏法の練習 ２学期　基本奏法の練習と合奏・声楽パートの練習及び弾き歌い。発展的な音楽理論の学習 ３学期　発展的合奏表現と作曲 ただし、日本音楽史・西洋音楽史については年間を通して適宜行う。				
到達目標	○基本的楽典の理解。調性音楽の原理理解。借用和音と転調の理解。 ○メンバーの志向等を共有・共感しながら演奏課題曲の選定と担当楽器の設定を行う ○各楽器の基本奏法の理解と演奏。コード・ネームに関連した楽典の理解と連携。 ○各楽器に関連した機材等の効果および操作理解 ○個人練習・合奏練習のメニュー理解と稽古実施 ○声楽的観点による歌唱表現の工夫　○弾き歌いを中心にした楽曲の解釈と理解 ○音楽における様々な様式と歴史の理解および応用				
評価方法	**［単位修得要件］** 授業参加練習態度、持ち物（楽譜など）、順番で行うレッスン等の評価、学期ごとの学科（筆記）試験、同学年末の演奏実演。以上を加味しながらこれらを「知識・技能」40％「主体性」30％「表現力・判断力・思考力」30％の観点別で評価を決定する。				
使用教材	教育芸術社　MOUSA　Ⅰ　及び　各グループ毎の課題曲楽譜　　資料プリント等				
その他	**［あらかじめ要求される基礎知識の範囲］** 小・中学校で培われた音楽的演奏能力および音楽的知識一般。ただし楽器演奏の経験および能力は特に問わない。 **［注意事項］** この授業は主体的な音楽表現を試みる事を目的としている。そのため音楽理論の専門的な知識の理解や、初めて演奏する事になる楽器の演奏などについて、指定された課題を丁寧に練習していくことが求められる。これらの総体として音楽的表現の可能性を実体験し追求して欲しい。				

●授業進度表

学年	科目	単元	項目	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4年	音楽	楽典	音部記号 音名 音符と休符 小節と拍子とリズム 楽語					1学期中間試験					1学期末試験										2学期中間試験						2学期末試験									学年末試験	
			音階と調																																				
			楽式																																				
		機能和声の論理	音階から和音（コード ネーム含む）																																				
			カデンツ																																				
			準固有和音																																				
			副五の和音・転調																																				
		ソルフェージュ	視唱																																				
		器楽演奏と弾き歌い	各楽器の基本奏法																																				
			発展的な奏法																																				
			合奏時の機材使用法と留意点																																				
			合奏練習																																				
			弾き歌い																																				
		表現とパフォーマンス	作曲																																				
			曲の表現プラン																																				
			舞台芸術としての観点とその理解																																				
		日本音楽史	古墳時代 奈良時代 平安時代																																				
			鎌倉時代 安土桃山時代 江戸時代																																				
			明治時代 昭和初期																																				
			現代																																				
			郷土の民謡と芸能																																				

教科	科目	単位数	対象学年
芸術	美術Ⅰ	2	4年

1．学習の到達目標等

到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。
目標を達成するための留意点	＊ 学 習 上 の 注 意 ・ 助 言 ・自分の作品を大切にし、ねばり強く集中し、試行錯誤し、制作に取り組む。 ・提出物の提出期限は必ずまもる。 ・準備や後片付けをきちんと行う。（忘れ物をしない） ・計画的に作業し、予定どおりに作品を完成できるように努力する。 ・作品を早く仕上げることよりも、最後まで試行錯誤しながら工夫し、困難を乗り越え創り上げることを大事にしたい。 ・鑑賞の学習では、作者の心情やその背景にあるもの、表現の意図と工夫について考える。 ・作品について良さや美しさ、感じたことをじっくり話し合う。 ・年３回の定期テストもしっかり準備して臨む。
使用教科書	美術１（光村図書出版）
使用副教材	プリント教材
評価基準	[知識・技能] ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し，創造的に表している。→ 作品・定期テストなどで評価します。 [思考・判断・表現] 造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，美術の働きなどについて考えるとともに，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。→ 授業プリント・ワークシート・定期テストなどで評価します。 [主体的に学習に取り組む態度] 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。→ 課題への取り組み方・発表・学習態度・作品・準備物・提出物などで評価します。
学習内容	高校美術オリエンテーション，身近なものを描く、初めての油彩画（自分の自宅を装飾するテーマ），絵具の特徴を知る，コラージュボックス（超現実主義やダダイスムから学ぶ）、近・現代の美術と歴史の関わり，最終自由制作（彫刻か油彩画）

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4年	美術	オリエンテーション 鑑賞	人間が長い歴史の中で「美」を追い求めた理由を考える。 美術表現の多様な展開に興味・関心を高める。					1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		静物画を描く（油彩）	静物画を通して油彩の基礎技法を身に付ける。技法だけでなく静物を観察する自分を意識し、表現につなげていく。																																			
		ボックスアート （アイデア）	箱の奥行きを生かし、自分だけの別世界を創造する。																																			
		ボックスアート （制作）	演劇の舞台デザインのような感覚で制作のイメージにあった空間になるように材料、配置などを工夫する。																																			
		ボックスアート （鑑賞）																																				
		自由制作	これまでの美術の体験を生かして平面・立体など、時間をかけて自由に作品制作をする。																																			
		自由制作	一年を思い返し、自分の感覚に合った表現方法や作家作品について考えをまとめる。																																			

教科	科目	単位数	対象学年
芸術	書道Ⅰ	2	4年

1．学習の到達目標等

到達目標	書道の幅広い活動を通して，書に関する見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の文字や書，書の伝 統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。
目標を達成するための留意点	① 書の表現の方法や形式，多様性などについて幅広く理解するとともに，書写能力の向上を図り，書 の伝統に基づき，効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。 ② 書のよさや美しさを感受し，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 ③ 主体的に書の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに，感性を高め， 書の伝統と文化に親しみ，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
使用教科書	書Ⅰ（光村図書）
使用副教材	資料・硬筆プリント等
評価基準	① 知識・技能：書の表現方法や形式、書表現の多様性について、創造的活動を通して理解を深めている。→半紙作品・定期テストで評価。 ② 思考・判断・表現：書のよさや美しさを感じ取り、意図に基づいて表現を工夫し美しさを伝えようとしている。→半切作品・定期テストで評価。 ③ 主体的に学習に取り組む態度：書の伝統と文化に親しみ、主体的に表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。→硬筆プリント・定期テストで評価。
学習内容	楷書、行書、草書、篆書、隷書、仮名、漢字仮名交じり書等の実技、鑑賞を通して様々な書の美しさを学ぶ。 ①楷書 「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」「雁塔聖教序」など、②行書「蘭亭序」、③草書「風信帖」、④篆書「泰山刻石」、⑤隷書「曹全碑」、⑥仮名「変体仮名」「蓬莱切」など、⑦漢字かな交じりの書では語句の自由な設定と多様な表現。 概ね、以上のような古典等を題材として、半紙・半切・硬筆プリントなどを用いながら学習を進める。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4年	書道Ⅰ	導入	授業・評価等の概要説明																																				
		楷書	孔子廟堂碑					1学期中間考査						1学期期末考査									2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
			九成宮醴泉銘																																				
			雁塔聖教序																																				
		行書	蘭亭序																																				
		草書	風信帖・千字文																																				
		篆書	泰山石刻																																				
		隷書	曹全碑																																				
		仮名	いろは・変体仮名・蓬莱切																																				
		漢字かな交じり書	語句・用紙の自由選択																																				

教科	科目	単位数	対象学年
英語	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	3	4年

1．学習の到達目標等

到達目標	多様な題材に触れ ・テキストを正確に理解し、それが前提としていることや背景にあることを推論する。 ・その内容について深く理解する。 ・題材をもとに、「聞く、読む、話す、書く」の４技能を有機的に関連付けつつ、総合的なコミュニケーション能力を養成する。
目標を達成するための留意点	・英語は継続して取り組むことで成果へとつながるので，課題も含め，毎日英語に触れるよう指導計画を作成する。 ・受験にも対応できる力を養成する。
使用教科書	Element English Communication Ⅰ、Revised Element English CommunicationⅡ（啓林館）
使用副教材	システム英単語（駿台文庫）　　リーディングパワー（数研出版） Hyper Listening Elementary（桐原）Revised ELEMENT Ⅱワークブック Standard（啓林館） 入門英語長文問題精講 3訂版（旺文社）※医進・選抜コースのみ
評価基準	評価の観点は、「知識・技能」,「思考・判断・表現」,「主体的に取り組む態度」の３項目を中心とし、「読む，書く，聞く，話す」の４技能も参考にする。 定期考査を基本に、平素の学習態度・提出物、学期毎のプレゼン、定期考査、リスニング試験、小テストなどを上記の観点に基づいて総合的に評価を行う。
学習内容	・日常生活・学校生活、ネット情報社会、言語と民族、比較文化、平和や地球環境、国際協力、科学技術や芸術・音楽、社会貢献、歴史、人間としての生き方など多様な話題の文章を読み解き、内容に興味を持ち、考える。 ・スピーチ、インタビュー、プレゼンテーション、レポート、レクチャー、対話文、説明文、物語といった多様な種類の文章の特徴に注目し、それらの表現方法を学ぶ。 ・上記の題材を読んだり聞いたりして理解し、考えた内容を書いたり話したりして発信することによって、４技能を統合する。 ・大学受験に耐えうる長文読解力(速読、精読)を養う。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	内容	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4年	英語コミュニケーションⅠ	Lesson 5	Respecting Each Other					1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		Lesson 6	Language and Culture																																				
		Lesson 7	Technology and Discoveries																																				
		Lesson 8	Standing Up for Human Rights																																				
		Further Reading																																					
	コミュ英語Ⅱ	Reading Skill 1																																					
		Lesson 1	Beyond Words																																				
		Lesson 2	Stay Hungry, Stay Foolish																																				
		Lesson 3	A Teenager To Change the World																																				
		Lesson 4	Life in a Jar																																				
		Further Reading																																					

教科	科目	単位数	対象学年
英語	論理・表現Ⅰ（Ⅱ）	2	4年

1．学習の到達目標等

到達目標	・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する ・事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養うことを目指す ・英語によるコミュニケーション力の育成を目指して、生徒の英語による言語活動の機会を十分に設ける。コミュニケーションのできる英語を目標に会話だけにとどまらない４技能の基礎作りの場とする。
目標を達成するための留意点	・英語は継続して取り組むことで成果へとつながるので，課題も含め，毎日英語に触れるよう指導計画を作成する。 ・受験にも対応できる力を養成する。
使用教科書	FACTBOOK English Logic and Expression Ⅰ（桐原）
使用副教材	FACTBOOK 総合英語(桐原)　スタディサプリ English（リクルート） FACTBOOK English Logic and Expression I Workbook [Essential]（桐原）
評価基準	評価の観点は、「知識・技能」,「思考・判断・表現」,「主体的に取り組む態度」の３項目を中心とし、「読む，書く，聞く，話す」の４技能も参考にする。 定期考査を基本に、平素の学習態度・提出物、学期毎のプレゼン、定期考査、リスニング試験、小テストなどを上記の観点に基づいて総合的に評価を行う。
学習内容	・中学の復習から入って徐々に発展的なものへと考慮し，無理なく英語の基礎力を養う。 ・品詞，動詞の活用，短縮形，名詞の複数形，数詞，国名，発音記号などまで学ぶ。 ・練習問題を通じて問題への対応力から英作文までの応用力を身に付ける。 ・受験対策としての文法知識の習得のための時間の確保や課題の授与も行う。 ・各課の仕上げとして習った表現を使った口頭による会話練習やスピーチの練習までを行う。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	内容	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4年	論理・表現Ⅰ	Unit8	How do you decide which products to buy?		■	■		1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査										学年末考査		
		Unit9	A variety of ways to improve your English			■	■																																
		Unit10	How can we become foreigner friendly?							■	■																												
	論理・表現Ⅱ	Unit1	How should we lead a healthy lifestyle?									■	■																										
		Unit2	Steps we can take to Zero Hunger											■					■																				
		Unit3	What are good and bad sides of urbanization?																	■	■																		
		Unit4	Is your city sustainable enough?																			■			■														
		Unit5	Which should get more priority: culture or the environment?																							■	■												
		Unit6	How to live a plastic free life																								■		■										
		Unit7	Helping others at home and abroad																												■	■							
		Unit8	Challenges to equality																														■	■					
		Unit9	Produce locally, consume locally																																■			■	

教科	科目	単位数	対象学年
情報	情報Ⅰ	1	4年

1．学習の到達目標等

到達目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ，情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し，情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。
目標を達成するための留意点	・基本技能の修得だけでなく、情報社会における個人のモラルについても留意させる。 ・身近なコミュニケーションツールの例など挙げて理解を促す。
使用教科書	『情報Ⅰ』（日文）
使用副教材	必要に応じて作成・配布
評価基準	知識・技能（４０％）、思考・判断・表現（３０％）、主体的に学習に取り組む態度（３０％） 各学期の期末試験、実技課題、提出物や授業に取り組む姿勢等を総合的に判断して評価する。
学習内容	1.　コンピュータとプログラミング ・コンピュータのしくみ ・アルゴリズムとプログラム ・モデル化とシミュレーション 2.　情報通信ネットワークとデータの活用 ・情報通信ネットワークの仕組み ・情報システムとデータベース ・データの活用

2．指導計画

科目	単元	項目	4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
			中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
情報Ⅰ	コンピュータとプログラミング	コンピュータのしくみ	■	■							1学期末試験															2学期末試験										学年末試験		
		アルゴリズムとプログラム										■	■	■	■	■	■	■	■																			
		モデル化とシミュレーション																		■	■	■	■	■	■													
	情報通信ネットワークとデータの活用	情報通信ネットワークのしくみ			■	■	■	■	■	■																											
		情報システムとデータベース																								■	■	■	■	■	■	■						
		データの活用																																		■	■